

場所	名称	概要
岐阜県 八幡町	カワド	<p>当地域では、承応元年（1652年）の大火をきっかけに、藩主遠藤常友が城下町の改造を行い、北町の防火対策として柳町用水、南町の灌漑用水として寛文水路（島谷用水）を開き、さらにその水を分水する小水路を張り巡らせ、多様な水利用システムを構築した。今もなお共同のカワドは洗い場として利用されている他、水路ごとに清掃当番が決められて、住民により日常管理が行われている。</p>
大阪府 岸和田市	ぬきず 抜水	<p>明治18年の大旱魃の時に、作才町を流れる川の上流の川底に穴のあいた土管を伏せ、湧き水を各家や共同の井戸に引いたことが始まりである。「湧き水を抜いて各家や共同の井戸に引き込んだ」ことから「抜き水」が語源であるという。昭和初期には、岸和田製水会社が、この水を利用し水を製造していた。写真の右側の水槽に、やかんに入った麦茶が冷やされている。</p>  <p>(資料： http://www.osaka.ntt.ocn.ne.jp/topics/meisui/sakuzai/sakuzai.html)</p>
青森県 弘前市	「ダキ」	<p>戦後しばらくは市内各所に井戸や「シツコ（清水）」と呼ばれる洗い場があり、飲料、洗い場について水槽の区分が厳しく守られていた。通称「ダキ」と呼ばれ、水量が豊富で、元禄2年の法華堂建立以前から生活用水に利用され、現在も地域の簡易水道の水源となる。広い洗い場は、日常の洗濯、野菜洗い、水くみなどをする地域住民のふれあいの場である。</p>  <p>(資料：青森県弘前市教育委員会)</p>
岡山県 奥津町	あしふみせんたく 足踏洗濯	<p>奥津温泉では、吉井川のほとりの露天風呂で「足踏洗濯」が行われ、入浴とともに地域住民の洗い場として重要な役割を果たしている。古来より温泉地として栄えてきた。</p>  <p>(資料：岡山県奥津町)</p>
佐賀県 富士町	カワ	<p>台所内まで入り込んだカワと称する池や、集落内用水路には、洗い物をする所とに使用ルールがあった。</p>

次頁へ続く～洗い場

水車

場所	名称	概要
岡山県 津山市	桐の木水車	<p>勝部に、「桐の木水車」という米搗き水車がある。この水車は、地元の集落の「水車連中」で今も維持されているが、津山市民もその維持に貢献している。また、市内周辺には他にも紙すき水車や製材水車、揚水水車が現役で活躍している。</p>  <p>(資料： http://fp-mimura4.archi.kyoto-u.ac.jp/Suisha/main.htm)</p>
栃木県 田沼町	クルマ屋	<p>田沼町は清流に恵まれた町で、南部は伏流水が地表に現れる。この流れを利用して、江戸中期から昭和初期にかけて76基の水車（箱水車を含む）があった。主に水車業（クルマ屋）は、近隣の農家や米穀商を相手に精米・精粉を行った。</p>  <p>(資料： 栃木県田沼町)</p>
愛知県 鳳来町	ぼっとり	<p>明治時代、この地域では「ぼっとり」や水車で米や麦をついていた。ぼっとりとは八升の米の精白に二昼夜を要する精米機である。ぼっとりは、時間はかかったが、米の味が非常に良いと云われた。水量の多いところでは、水車をかけ、賃稼ぎをした。</p>
岡山県 笠岡市	尾板の水車谷	<p>笠岡市内を北流する尾板川の上流渓谷には、明治から昭和20年代まで数多くの水車があり、小麦粉から手延べそうめんやうどんが作られていた。当時「尾板そうめん」は、近隣の町村にも知れ渡っていた。</p>
岩手県 久慈市	桂の水車	<p>久慈市の山根地区では昭和55年まで形態が残されていた水車を調査資料を元に忠実に復元し「桂の水車」と名づけ活用している。</p>
兵庫県 佐用町	水車	<p>水車による精米、又こんにゃくの産地としてこんにゃくの製粉を水田により行っていた。</p>
富山県 城端町	水車	<p>昭和初期まで使用されていた40基ちかくの水車を復活させるため付加価値としてカラクリをつけた水車としてよみがえらせた。</p>
福岡県 犀川町	回転鋸による製材	<p>町域南部は英彦山系の豊かな水に恵まれ、林業が盛んだが、戦前まで水車を利用した回転鋸による製材が盛んだった。</p>
岩手県 遠野市	水車	<p>市内には6基の水車が現存しており、脱穀や製粉に利用されていた。現在では、伝統的な田園景観のシンボルとして観光の振興に寄与している。</p>

かっぱ伝説

場所	名称	概要
熊本県 多良木 町	かわんたろう	球磨川とその支流には、「こぶち」「わんぶち」等と呼ばれている淵が点在する。淵の、深く暗い川底には、得体の知れない何かが棲み、人々を飲みこむと伝えられていた。これは「水神さん」「かわんたろう」等と呼ばれ「水を恐れ大切にす」水文化の象徴的な存在である。
熊本県 五木村	ガワツパ	「弘法大師の話」、「大蛇の話」、「祇園池のクズと片目の魚」等。また、俗信としてヤマノタロウ・カワノタロウ・シエコ・ガワツパ等がある。
青森県 木造町	すいこさま 水虎様	稲作民族の祖先は、水に関心を持ち、水の恵みを祈り、災いが起こらぬよう念じていた。水の主は龍でありカッパであった。古田放川は子どもたちにとっては格好の水遊びの場である一方、溺死者がよく出た。子どもの水死は、カッパが子どもを引き込むためと信じられていた。子どもの水死を防ぐためにカッパを祀ろうと、特に淵の近くにカッパ、即ち「水虎様」が祀られた（水霊信仰）。江戸時代に入り町民文化が栄えると、この水霊信仰が廃れ、カッパは相撲好きでいたずら好きという人間くさいものに変化していく。踊るカッパ、酒盛りするカッパが戯画化され、焼き物などにもなって観光みやげに販売されるようになった。近年、当町の木造りでは、祭りである「カッパ祭り」が行われるようになっている。

滝伝説ほか

場所	名称	概要
福岡県 北九州 市	菅生の滝	<p>小倉南区の南端、道原の谷の奥に約30mの高さを誇る「菅生の滝」がある。夏になると、涼を求める市民などで大変賑わう場所である。この滝の名前には伝承がある。</p> <p>昔、里長の娘との身分違いの悲恋を哀しんで滝に身を投げた百姓の青年は白蛇に変化した。蛇の祟りか、熱病に冒された娘は、夜毎夢に見るこの滝に行くことを望んだ。家族もそれ以外の術はないと、その顔に黒く墨を塗って滝に向かわせた。しかし娘は滝の飛沫で墨が落ちたのに気付かず、美しい素顔が滝壺に映った瞬間、滝の主は娘を水底に連れて行った。それ以来、この滝を素顔の滝と呼ぶようになり、呼び名は同じまま、「菅生の滝」と書かれるようになったという。</p> <p style="text-align: right;">（資料：北九州市小倉南区役所まちづくり推進課）</p>
香川県 丸亀市	垂水地区	市内の垂水町は安楽寺にある時雨の松からいつも水が滴り落ちて水が豊かであったため、垂水という地名がついたといわれる。
岐阜県 坂内町	夜叉ヶ池伝説	「夜叉ヶ池」は、山の稜線上にある神秘的な池である。池の岩壁から滝が落ちているが、今だ水が溜れたことがない。そのため古くから雨乞いの対象となっていた。夜叉ヶ池には、雨を降らせてもらった代りに、池に住む竜神に嫁ぐ「夜叉ヶ池伝説」がある。娘は竜神に連れられ、揖斐川を上る。その名残が、娘の実家があるといわれる神戸町から、揖斐川町、藤橋村、坂内村に点在している。



弘法伝説

場所	名称	概要
神奈川県南足柄市	弘法のつき水	<p>ある暑い夏の日、荻野の鈴木さんのお宅に一見乞食坊主と思われるようなお坊さんが訪ねてきた。機織りをしていたおばあさんが出てみると汗を流しながら「お水をいっぱいお恵み下さい」という。おばあさんは、気の毒に思い、お坊さんを家に招き入れ、自分は裏口から大急ぎで小径を下り、小川まで行って清水をくんで、坂道を登ってきてお坊さんに水を差し出した。お坊さんはたいそう感激し、「これからは水にこまらないようにしてあげましょう」と屋敷の西の端に、持っていた錫杖を突き刺し呪文を唱えた。すると杖の先から清水が湧き出した。お坊さんは実は弘法様で、この清水は「弘法のつき水」と呼ばれるようになった。今も鈴木さんの裏庭には水がこんこんと湧き出している。</p>  <p>(資料：神奈川県南足柄市)</p>
栃木県田沼町	弘法岩	<p>その昔、大字下彦間に旅の僧が通り、一杯の水を求めたところ留守の老人は初夏の水不足を理由にこれを断った。別の農家に立ち寄った所、家にいた老婆は矢の窪という所まで行き、冷たい清水を汲んで与えた。旅の僧は非常に喜び、立ち去った。数日たったある日、再び僧が現れ、彦間川のほとりの岩に立ち、呪文を唱えながら錫杖を枯れた川底に突き刺すと穴から水が湧き出し、泉となった。その立った岩を弘法岩という。</p>
福岡県甘木市	水が枯れる川	<p>冬場になると、水が枯れる川があり(伏流) 民話もある。(旅のお坊さんが川で大根を洗っていた人に一本くれとிட்டが、あげなかったことから、その時期になると水を流れないようにしたという民話)</p>

雨乞い

場所	名称	概要
香川県仁尾町	雨乞い踊り	<p>大干ばつに襲われた寛政11年(1799)、仁尾のため池の水は枯れ、井戸の水も底をつき、稲は今にも枯れようとしていた。毎夜続く竜王神に祈る雨乞いの神事もむなしく日照りが続いた。百姓たちは、藁で大きな竜を作り、伊予の黒蔵淵からくんだ水をかけて和蔵と共に祈った。すると雷光と共に大粒の雨が降りはじめた。以後仁尾町では140年間この神事が行われたが、昭和14年に途絶えた。昭和63年、50年を経て瀬戸大橋博覧会開催時に復活し、現在に至る。</p>  <p>(資料：http://service.kagawa-net.or.jp/niocho/nio2.htm)</p>

次頁へ続く：雨乞い

場所	名称	概要
岐阜県 春日村	雨乞い踊り	<p>霊峰「日本七高山」の一つ伊吹山連峰を源とする 粕川は西美濃地域の農業の水嚮として、古来より重要な役割を果たして来た。その一つとして春日の太鼓踊りがある。「往昔長い日照（旱魃）により農作業ができず困り果てた百姓衆が当地に伝わる雨乞い踊りを懇願し踊ったところ慈雨がいった」と今も語り継がれ、現在も村内5地区でその踊りが連綿と伝えられている。</p> 
（資料：岐阜県春日村）		
香川県 琴南町	念仏踊	<p>香川県は古来より雨の少ない県であり、県内各地には数多くのため池がある。水稲栽培のためには、ため池だけでは不足であったのか、各地に雨乞いのための踊りが伝統芸能として残っている。琴南町は一級河川「土器川」の上流に位置している。また、香川県で2番目に高い山である大川山（だいせんざん）に古来からふもとの地域の信仰を集める大川神社がある。この神社では、雨乞いのために「大川念仏踊り」踊られており、現在でも、保存会により大切に保存、伝承されている。</p>
長野県 上田市	たけのぼり 岳の幟	<p>別所地区は全国的に降水量の最も少ない地域であり、古くから干ばつに遭ってきた。室町時代後半永正元年（1504年）大干ばつのため田畑が干上がり作物が枯死寸前となったため、村人は近くの夫神岳の九頭権現に祈りを捧げた。すると、にわか大雨が降り田畑を潤したという。以来、人々はお礼として布の幟を奉納している。祭礼は毎年7月中旬に行われる。国の選択無形民俗文化財。</p>
福岡県 犀川町	貴船社	<p>祭礼のほとんどが水に関するものであり、神社の中でも最も多い名前は「貴船社」である。</p>

五穀豊穰・大漁祈願・水恩感謝

場所	名称	概要
福岡県 北九州市	和刈神事	<p>県指定無形民俗文化財に指定されているこの行事は門司区の和布刈神社に伝わる。毎年旧暦元旦の午前2時頃、干潮の頃を見計らって神職が境内の石段から海峡に入り、ワカメを刈り取り、神前に供えるというものである。昭和20年頃までは秘儀として、庶民は見る事を許されなかったという。神代の昔、神功皇后が武運と航海の安全を祈願してワカメを神前に供えたという故事に由来する。</p>
大分県 米水津村	こくやの水神様	<p>養福寺の本堂の裏にある「こくや」の水神様は霊験あらたかで、この水神様に願かけにお参りするときには、1人で参らなければならず、途中他人に顔を見られると顔がかなえられないといわれている。</p>
静岡県 川根町	松明ながし	<p>豊作祈願の催事で、大井川に流した藁で作った舟をし、その上で松明を灯し、それが消えずに下流に流れると豊作、途中で消えてしまうと凶作で忌み嫌った（朝から作り出し、夜中に火をつけて流す）</p>
沖縄県 竹富町	水への感謝の祈り	<p>国の重要無形民俗文化財に指定されている「西表島の節祭」の行事の中で、3日目に集落の水源地において水恩感謝の儀礼が行われる。</p>

次頁へ続く～雨乞い

場所	名称	概要
佐賀県 呼子町	五穀豊穰・ 大漁祈願の 祭事	町内の小友地区で旧暦6/14-15の両日に行われる祇園祭は高さ12m重さ3トンの山笠をかついで海の中を練り歩き、八坂神社に疫病除け、五穀豊穰、大漁祈願を行う。 
静岡県 かわね 郷	平田のたる ながしほか	名だたる暴れ川である大井川は、「道」として、木材流送砂金採取（接岨峡）などの恵みも与えていた。人々は川の恵みと安全を願うとともに、疫病退治を祈願するために、松明に火を付けて川に流す行事を始めた。 献灯先は津島神社（愛知県）。祀神はスサノオノミコトであり、疫病を防ぐといわれる。かわね郷各地区で行われ、戦時戦後も絶えることなく流されていたが、現在では、「平田のたるながし（本川根町）」「平谷の流したい（中川根町）」「石風呂のたい流し（川根町）」などいくつかが残るだけとなった。 

（資料：佐賀県呼子町）

（資料：静岡県中川根町）

滝信仰

場所	名称	概要
北海道 西興部 村	滝信仰	興部川上流に「行者の滝」があり、この滝にうたれ病を克服した言い伝えがあり、現在その伝承により、信者などが、行者の滝祭を実施している。
福島県 三春町	滝信仰	当町の南側を流れる大滝根川には上流より三階滝・不動滝・御前滝などの名勝地があり、それぞれの滝に伝説が残されている。

神の交流

場所	名称	概要
長野県 諏訪市	おみわたり 御神渡り	<p>諏訪湖が全面結氷すると、大音響とともに氷が割れ、その跡が高く押し上がり御神渡りができる。これは諏訪大社上社男神が、下社の妃神の許に通った道跡であるといわれる。八劔神社では、御神渡り拝観の儀式が行われ、御神渡りの方向により、吉凶が占われる。</p>
		 <p>(資料：長野県諏訪市)</p>
石川県 羽咋市	御座船の舟 わたり	<p>羽咋神社の秋季祭礼の14日夜、羽咋神社から旧社ともいわれる川原町八幡社へ渡御するため、長者川を二艘の御座舟で舟わたりをする。約150mの近距離を2時間余りも青年達により行きつ戻りつする。俗に石撞別命が女神様へ会いに行くとか、悪魔退治の式をかたどるといわれる。11時頃川岸に着け、御輿をかつぎ境内に入り、祭りの後、長者川を下って帰社する。</p>
		 <p>(資料：石川県羽咋市)</p>
高知県 中村市	不破八幡 宮大祭	<p>10月10日は不破八幡宮並びに一宮神社にかかわる「神様の結婚式」と称される神事が行われる。</p>

楔ぎ・厄除け・鎮魂

場所	名称	概要
静岡県 中川根町	平谷の流し たい	<p>「流したい」は、大井川が堰き止められて鉄砲水として流れ出て氾濫し、さらに疫病が流行ったときに、愛知県津島大社に奉納をはじめたのがきっかけである。当時「流したい」はどの地区も行っていたが、戦中も耐えることなく続いているのは当地域のみである。過疎化に伴い、隣接する瀬田地区と協同で維持している。</p>
岡山県 笠岡市	北木島の流 し難	<p>笠岡諸島最大の島・北木島の大浦海岸では、旧暦3月3日に、麦藁の船に紙雛を乗せて海へと流す伝統行事が行われる。和歌山県の淡島明神信仰にまつわる行事で、女性の厄よけと言われる。</p>

次頁へ続く～楔ぎ・厄除け・鎮魂

場所	名称	概要
新潟県 栃尾市	寒精進	<p>12月下旬、一年の災厄を水ごりで清め新年を迎える行事。 江戸時代から続く伝統行事。</p>  <p style="text-align: right;">(資料：新潟県栃尾市)</p>
和歌山 県大塔 町	流れ施餓鬼	<p>大きな麦わらの舟に神仏を乗せ、火をつけて川に流す珍しい精霊流し「流れ施餓鬼」。大塔村下川上の日置川支流・安川で行われる。文化6年(1809年)、山で伐採した木の丸太流し作業の犠牲者の霊を慰めるために始められたといわれる。一時中断していたが、伝染病が流行した明治6年(1873年)から復活した。現在では上村地区の新仏を送る伝統行事として継承されている。</p>

海神・龍神

場所	名称	概要
青森県 木造町	十和田様	<p>松原の十和田神社はご神体が竜であり、竜神様と呼ばれている。水虎様と同様水霊信仰が出发点である。竜は湖に住み、川となって滝になり急流になり海に注ぐ。そして雲となり昇天し、大地に恵みの雨をもたらし、怒れば雷雨となって大洪水をおこすと信じられていた。十和田様は全県の神社や寺などに多く付置されて祀られており、必ず池を伴っている。またここでは、水の恵みによって豊作を願い、豊凶を占う「散供(さんご)うつ」とよばれる占いが行われていた。</p>  <p style="text-align: right;">(資料：青森県木造町)</p>
青森県 板柳町	海童神社	<p>板柳町の船岡は、岩木川一の良港であった。「藩祖為信が文禄2年当時の朝鮮」に軍を出している豊臣秀吉と会うため、十三港を経て日本海を航行するにあたり、先ず板屋野木村船岡に兵糧積立しの河港を設けた。現在ある海童神社は、海神を勧請して海上航路安全の祈願所とするために建立された。</p> <p style="text-align: center;">(資料：青森県板柳町)</p> 

ため池

場所	名称	概要
香川県 丸亀市	ため池文化	<p>讃岐は古くから水不足にまされ ており、そのため農業用、飲料 水用にため池を多く作り利用し てきた。配水さん、水守を中心 とした伝統的な水利慣行システ ムを持つ。</p> <p>(資料：ミツカン水の文化センター 「水の文化」)</p>



ダム

場所	名称	概要
青森県 川内町	かわうちダ ム	<p>川内川上流治水ダムの「かわ うちダム」が平成6年度 完成、現在は周辺環境が整備さ れ(道の駅など)、親水スポッ トとして人々にいこいの場とな っている。</p>
福岡県 甘木市	水の文化 村	<p>2つのダムから市内と福岡市へ水を送っており、「福岡の水がめ」と呼ばれている。ダム湖に「水の文化村」という施設を作り、水ついて広く情報提供を行っている。</p>

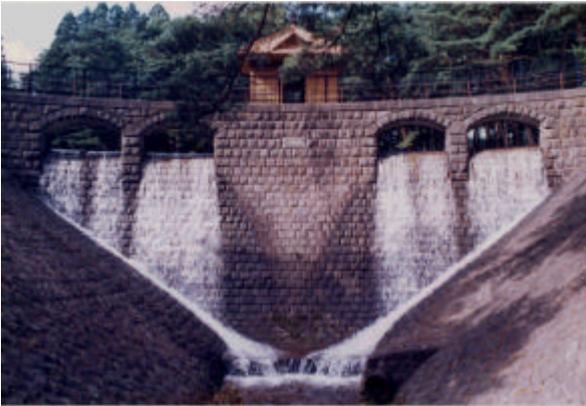


(資料：青森県川内町)

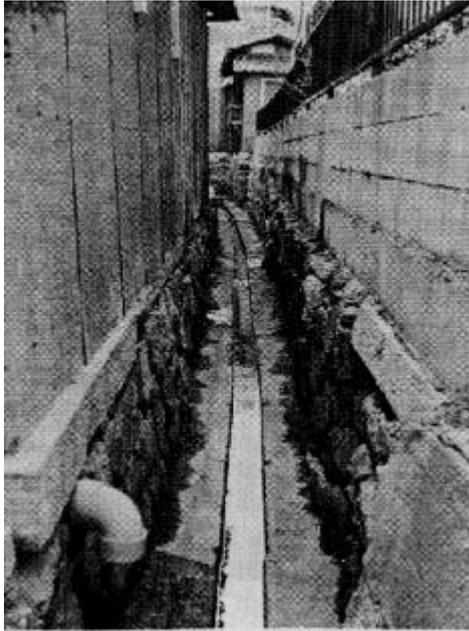
文化財

場所	名称	概要
山梨県 韮崎市	朝聴堰 徳島堰	<p>水不足を補うための朝聴堰、又中巨摩地区に水を引くための徳島堰は、江戸時代より通水されている。</p>
佐賀県 多久市	羽佐間水 道	<p>江戸時代頃より治水・灌漑用として築かれた羽佐間水道があり、現在も立派に用水路として活用されている。</p>

次頁へ続く～文化財

場所	名称	概要
青森県 むつ市	アーチ式石造ダム	<p>明治41年、海軍大湊要港部への水供給の必要性からアーチ式石造ダムが建造された。昭和21年には軍から町に移管され、住民の水道となった。昭和51年には実際の役割を終えたが、今も「水源地」の名を残し水源公園の中にある。また、丸の内ビルを設計した桜井小太郎海軍技師の設計によるもので、日本の水道史においても貴重な遺構であることを東大の村松貞次郎教授が市に進言、保護を要請したことで、一部埋め立てられる計画が再検討され、現在の形となった。平成5年に県重宝に指定された。</p>  <p>(資料：青森県むつ市)</p>

地域の歴史の象徴

場所	名称	概要
滋賀県 近江八幡市	背割下水	<p>古くから生活用水の確保が困難であったため、水源地に親井戸を設け、そこに貯めた水を竹管によって共同井戸や各戸の取井戸に配水する「古式水道」が、町民の自主管理の形により発達した(日本最古)。また、「背割下水」と呼ばれる排水路が豊臣秀次によって整備されていた。</p>  <p>(資料：滋賀県近江八幡市)</p>
宮崎県 山崎町	前田正名の用水路	<p>明治時代に前田正名という人が丸谷川より水を引き用水路を完成させた。用水路は彼の名前を取り前田用水路と呼ばれている。記念碑も作られており、郷土の先覚者として、現在もその功績が称えられている。</p>
宮崎県 西都市	児玉久右衛門の堰	<p>穂北地区は水利に乏しい地域であったが、江戸時代に住民の窮乏を見かねた児玉久右衛門が私財を投じて堰を完成、その後、穂北地区は豊かな土地となった。</p>
千葉県 大多喜町	大多喜水道	<p>当地域には、江戸時代、大多喜藩治政下に、飲料水ならびに灌漑用水の確保を目的として県下初の「大多喜水道」が建設された。記録によれば、明治2年から同3年にかけて、藩をあげての大工事が行われ、近隣の人々を人足として雇い、大多喜藩知事は米を、そして町方の人は金子を援助したと記録されている。</p>

次頁へ続く～地域の歴史の象徴